

Universal

離

距

遠

1



2024年6月29日[土]——9月1日[日]

広島市現代美術館 Hiroshima City Museum of Contemporary Art

会場：B展示室 地下1階ミュージアムスタジオ | 開館時間：10:00-17:00 (入場は閉館の30分前まで) | 休館日：月曜日(ただし7月15日、8月12日は開館)、7月16日(火)、8月13日(火)

観覧料：一般1,300円(1,000円)／大学生950円(750円)／高校生・65歳以上650円(500円)／中学生以下無料 *()内は前売りおよび30名以上の団体料金

June 29 Sat.-September 1 Sun., 2024 | Venue: Gallery B and the Museum Studio

Hours: 10:00-17:00 (Last admission 16:30) | Closed: Mondays (except July 15 and August 12), July 16, August 13

2



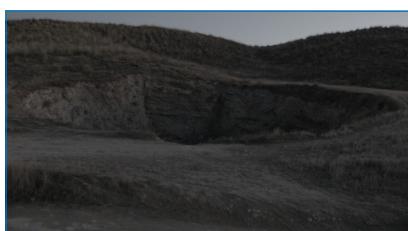
3



4



5



7



8



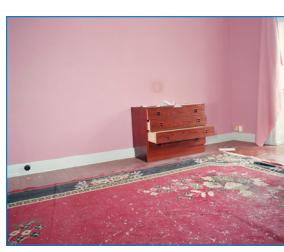
9



1=井田大介《誰が為に鐘は鳴る》2021年 © Daisuke Ida, courtesy of the artist | 2=徐冰《とんぼの眼》2017年 © Xu Bing Studio, courtesy of the artist | 3=トレヴァー・パグレン《ミッドアトランティッククロッシング》(MAC)、米国家安全保障局(NSA)と英政府通信本部(GCHQ)が盗聴している海底ケーブル、大西洋) 2015年 © Trevor Paglen, courtesy of the artist; Altman Siegel, San Francisco; Pace Gallery, New York | 4=ジョルジ・ガゴ・ガゴシツエ、ヒト・シュタイエル、ミロス・トラキロヴィチ(ミッション完了:ペランシージ) 2019年／展示風景:「ヒト・シュタイエル」ノイエ・ベルナー・クンストフェライン(n.b.k.)、2019年 Courtesy of the artists; Neuer Berliner Kunstverein, Berlin; Andrew Kreps Gallery, New York; Esther Schipper, Berlin. Photo © Neuer Berliner Kunstverein (n.b.k.) / Jens Ziehe | 5=地主麻衣子《遠いデュエット》2016年 © Maiko Jinushi, courtesy of HAGIWARA PROJECTS | 6=ティナ・エングホフ《心当たりあるご親族へ——男性、1954年生まれ、自宅にて死去、2003年2月14日発見》2004年 © Tina Enghoff, courtesy of the artist | 7=チャ・ジェミン《迷宮とクロマキー》2013年 © Jeamin Cha, courtesy of the artist | 8=エヴァン・ロス《あなたが生まれてから》2023年／展示風景:「あなたが生まれてから」ジャクソンビル現代美術館、2019年 © Evan Roth, courtesy of the MOCA Jacksonville. Photo by Doug Eng | 9=木浦奈津子《こうえん》2023年 © Natsuko Kiura, courtesy of the artist

井田大介 Daisuke Ida | 徐冰 Xu Bing | トレヴァー・パグレン Trevor Paglen | Giorgi Gago Gagoshidze +
ジョルジ・ガゴ・ガゴシツエ + ヒト・シュタイエル + ミロス・トラキロヴィチ Hito Steyerl +
地主麻衣子 Maiko Jinushi | ティナ・エングホフ Tina Enghoff | Miloš Trakilović
チャ・ジェミン Jeamin Cha | エヴァン・ロス Evan Roth | 木浦奈津子 Natsuko Kiura

6



現

Remote 在

遠距離現在 Universal / Remote

現代美術が観測した、個人と社会の距離感

20世紀後半以降、人、資本、情報の移動は世界規模に広がりました。2010年代から本格化したスマートデバイスの普及とともに、オーバーアーリズム、生産コストと環境負担の途上国への転嫁、情報格差など、グローバルな移動に伴う問題を抱えたまま、私たちは2020年代を迎えるました。そして、2020年に始まった国境のないパンデミックにより、人の移動が不意に停止されたものの、資本と情報の移動が止まる気配はありませんでした。かえって、資本や情報の本当の姿が見えてくるようになったと思えます。豊かさと貧しさ。強さと弱さ。私たちの世界のいびつな姿はますます露骨に、あらわになるようです。

展覧会タイトル「遠距離現在 Universal / Remote」は、資本と情報が世界規模で移動する今世紀の状況を踏まえたものです。監視システムの過剰や精密なテクノロジーのもたらす滑稽さ、また人間の深い孤独を感じさせる作品群は、今の時代、あるいはポストコロナ時代の世界と真摯に向き合っているように見えます。本展は、「Pan-」の規模で拡大し続ける社会、「リモート化する個人」を軸に、このような社会的条件が形成されてきた今世紀の社会の在り方について取り組んだ8名と1組の作品をご紹介します。

Since the late 20th century, people, capital, and information came to move on a global scale. We entered a new phase in the 2010s along with the proliferation of smart devices and issues such as excessive tourism, shifting of industry's production costs and environmental impact to developing nations, the digital divide and so forth were only worsening as the 2020s dawned. And while the outbreak of a pandemic that recognizes no borders suddenly put the brakes on the movement of people, the limitless flow of capital and information showed no sign of stopping. In fact, it seems we are seeing the true visage of capital and information systems for the first time. The rich and the poor, the powerful and the powerless: imbalances in our world are becoming more explicit all the time. The exhibition title *Universal / Remote* references prevailing conditions in the 21st century as capital and data flow freely on a global scale. Conveying comical aspects of the excesses of surveillance and high-tech networks, as well as the profound isolation of human beings, works in this exhibition seem to grapple head-on with the current era and with the post-COVID world. The exhibition presents the works of 8 artists and a group of 3 artists that address the state of society in the 21st century as shaped by the conditions described above, focusing on two concepts, "Constant Growth at a Pan-Global Scale" and "The Remote Individual."

井田大介 | Daisuke Ida

1987年鳥取生まれ、東京在住。彫刻・映像・3DCGなどを用いて、目には見えない現状の社会の構造や、そこで生きる人々の意識や欲望を視覚化している。本展では3点の映像作品を再構成し、「飛行」「上昇」「落下」のメタファーでコロナ禍社会を捉える。

徐冰(シュ・ビン) | Xu Bing

1955年中国生まれ、ニューヨークと北京を拠点に活動。初の映像作品《とんぼの眼》(81分)は、ネット上に公開されている監視カメラ映像、約11,000時間分から編集された長編映画。*当館地下1階ミュージアムスタジオにて1日4回上映予定。詳細は当館ウェブサイト等をご確認ください。

トレヴァー・パグレン | Trevor Paglen

1974年アメリカ生まれ、ベルリンとニューヨークを拠点に活動。地理情報と軍事機密、マシンビジョン、監視と通信システム、AIによる自動生成イメージなどをテーマに制作。本展では〈上陸地点〉〈海底ケーブル〉〈幻覚〉の3シリーズを展開する。

ジョルジ・ガゴ・ガゴシツエ | Giorgi Gago Gagoshidze

ヒト・シュタイエル | Hito Steyerl

ミロš・トラキロヴィチ | Miloš Trakilović

シュタイエルはデジタル技術や資本主義といった社会的条件の中のイメージの生産と消費に関する映像作品を制作。《ミッション完了: ベランシージ》は3人の共同制作による。

地主麻衣子 | Maiko Jinushi

1984年神奈川生まれ、東京在住。映像、インスタレーション、パフォーマンス、テキストなどを組み合わせた自らの作品を「新しいかたちの文学的体験」と呼ぶ。チリの詩人・小説家のボラニョーをめぐる『遠いデュエット』(40分)は5章からなる映像作品。

ティナ・エングホフ | Tina Enghoff

1957年デンマーク生まれ、コペンハーゲン在住。福祉国家の構造的暴力といった社会問題に焦点を当てたプロジェクトに取り組む。日本初紹介となる本展では、代表作〈心当たりあるご親族へ〉で都市に存在する孤独を問う。

チャ・ジェミン | Jeamin Cha

1986年韓国生まれ、ソウル在住。日本初紹介。映像作品《迷宮とクロマキー》では、「ネット強国」を自負する韓国社会の片隅で、インフラを作る作業者の姿から、大量の情報を支える個人の労働が浮かび上がる。

エヴァン・ロス | Evan Roth

1978年アメリカ生まれ、ベルリンを拠点に活動。制作にハッキングの概念を持ち込む。コンピューターのキャッシュに蓄積された画像を用いたインスタレーション『あなたが生まれてから』は、本人も知り得ない自画像を写す。

木浦奈津子 | Natsuko Kiura

1985年鹿児島生まれ、在住。一貫して風景、特に日常の景色を独自の距離感で見つめ、描き続ける。本展では、新作を含む大小様々な絵画を構成することで、新たな風景を広げる。

オープニングトーク

会場を巡りながら、本出品作家と企画者がリレー形式でトークをします。

日時： 6月29日(土)14:00-15:30

場所： 展覧会会場(展示室B-1前にお集まりください)

登壇者： 井田大介、地主麻衣子、木浦奈津子、

尹志慧(国立新美術館特定研究員)

*要展覧会チケット、申込不要

ワークショップ：福永信さんと鑑賞ガイドブックをつくる

本展図録執筆者の福永信さんと一緒に、これまでとはひと味ちがう、展覧会の鑑賞ガイドブックを制作します。できあがったものは美術館で配布されます。

日時： 第1回 7月13日(土)11:00-17:00

第2回 8月3日(土)11:00-16:00

場所： モカモカ(多目的スペース)

人数： 10名程度(中学生以上推奨)

講師： 福永信(小説家)

*要事前申込、7月3日(水)募集締切(応募者多数の場合は抽選)

イベントの詳細、応募については当館ウェブサイト等をご確認ください。

*両日程の参加が必要です。

*上記日程に加えてオンラインでの活動も予定しています。

学芸員によるギャラリートーク

担当学芸員が会場を巡りながら展覧会について解説します。

日時： 7月21日(日)、8月10日(土)15:00-16:00

*要展覧会チケット、申込不要

アートナビ・ツアー

アートナビゲーターによるツアー形式の展示解説です。

毎週土・日・祝休日 各日11:45-12:15／14:45-15:15

(オープニングトーク、ギャラリートーク開催時は午前中のみ開催)

*要展覧会チケット、申込不要

同時開催

コレクション展 2024-I

ハイライト＋リレーションズ [ゲストアーティスト：手嶋勇気]

4月27日(土)-8月12日(月休)

コレクション展 2024-II

ハイライト＋リレーションズ [ゲストアーティスト：中西紗和]

8月24日(土)-12月8日(日)

前売券販売所

広島市現代美術館受付、オンラインショップ「339」、

チケットぴあ(Pコード:686-868)

*販売は2024年6月28日(金)まで

県美×現美×ひろ美 相互割引

「遠距離現在 Universal / Remote」会期中に広島県立美術館、ひろしま美術館で開催される特別展チケット(半券可)を受付に提示いただくと、観覧料が100円割引になります。

*1枚につき1名限り、他の割引との併用はできません。



アクセス
Access



展覧会情報
Exhibition website



広島市現代美術館
Hiroshima City Museum of Contemporary Art

〒732-0815 広島市南区比治山公園1-1

1-1 Hijiyama-Koen Minami-ku Hiroshima

Tel: 082-264-1121

www.hiroshima-moca.jp